

# リハビリテーション科

## 業務内容

2021年のリハビリテーション科は、業務環境の大きな変化のあった1年でした。これまで使用してきたA棟3Fから、2021年10月にA棟2Fエリアにリハビリテーション室を移転。新しいリハビリテーション室は従来の敷地面積から1.4倍へ拡大。南向きの窓を有する日当たりのよいリハビリテーション室は患者さんが明るい訓練環境を得られ、また総勢90名を超えるスタッフの労働環境の改善を図ることができています。近年のリハビリテーションの役割は急性期病院の在院日数短縮を背景に、医学的リスク管理の上での速やかな介入と必要なリハビリテーションの時間数を提供することが重要とされています。そのため、当科のスタッフも計画的に増員。2021年は理学療法士5名、作業療法士4名、言語聴覚士1名を採用し、患者さんに提供できるリハビリテーションの拡大を図っています。総勢90名を超えるスタッフが在籍する当科は、専門性の高い医療との両立を図った積極的リハビリテーションアプローチと患者中心の医療を達成するために各職種との連携を強化することを重要視しています。特に、病院機能の専門性が高くなり入院患者さんへのリハビリテーションの提供も複雑かつ危険性も高まってきています。そのため、各診療科の医学的見地を踏まえた専門的リハビリテーションを提供するために、当科では5つの部門（ユニット）＝に分けリハビリテーションを実施。脳疾患ユニット、内科ユニット、外科ユニット、がんユニット、外傷整形ユニットに分けかれ専門リハビリテーションを提供することで、各診療科のニーズに合わせた診療体制を構築しています。

2021年度の各ユニットの主な取り組みとして、脳疾患ユニットは病棟での転倒転落を軽減するための多職種での情報共有の仕組みの構築に取り組みました。内科ユニットでは、集中治療分野との連携を図り、重症者から在宅復帰までを支えるリハビリテーションの取り組みに力を入れた一年となりました。外科ユニットでは、心疾患に対する心臓リハビリテーション外

来を2Fリハビリテーション室に移転し、拡充を図ってきました。がんユニットでは、がん治療を受ける患者様の包括的リハビリテーションを提供するための研修制度に積極的に参加し。2021年度も4名の研修修了者を輩出しています。外傷整形ユニットは、2022年4月にB棟6F外傷センターリハビリテーション室の開設も控え、患者さんに対する多様なリハビリテーションを実現する広いスペースと様々なトレーニング機器を導入を予定としています。そして、COVID-19への対応として、県の臨時医療施設においてCOVID-19の中等症患者に対するリハビリテーションの提供も行いました。患者さんが日常生活を取り戻せるように、臨時医療施設からの速やかな退院を目的に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がユニットの垣根を越えて協力して対応しました。

## 業務実績

### 【診療実績】

総計	162,816件
理学	85,167件
作業	55,297件
言語	22,352件
入院件数	計：144,002件
理学	78,809件
作業	43,165件
言語	22,028件
外来件数	計：18,814件
理学	6,358件
作業	12,132件
言語	324件
新規件数	計：22,743件
理学	10,159件
作業	8,601件
言語	3,983件

# リハビリテーション科

## 【学術実績】

### 論文

1. 南條 恵悟 : Gait speed and pain status as discriminatory factors for instrumental activities of daily living disability in older adults with knee osteoarthritis. Geriatr. Gerontol. Int. 2021.
2. 須田健太郎 : 人工膝関節全置換術後患者に対する膝関節屈曲練習用リハビリクッションを使用した関節可動域練習と患者教育を組み合わせた介入効果. 理学療法:技術と研究.2022.02;(50):99-103

### 学会発表

1. 桑島泰輔, 2021, Asia Prevent 2021(第27回心臓リハビリテーション学会) : Can the certain increase of the muscle strength evaluated during the cardiac rehabilitation indicate the appropriate time for the CPX?
2. 南條恵悟, 2021, 第9回日本運動器理学療法学会学術集会 : 高齢変形性膝関節症患者の手段的日常生活活動動作障害と疼痛に対する破局的な思考および自己効力感の関連性.
1. 長塩拓也, 2021, 第9回日本運動器理学療法学会学術集会 : 大腿骨転子部骨折患者において骨折型を考慮しても術側下肢荷重率は急性期病院退院時の歩行能力に影響する.
2. 長谷川和也, 2022, 第49回日本集中治療医学会学術集会 : 臍頭十二指腸切除術における術後悪心嘔吐がリハビリテーション経過に与える影響.
3. 渡邊暁, 2022, 第47回脳卒中学術集会 : 急性期脳卒中患者における尿道カテーテル離脱の可否と退院時FIMとの関係.
4. 江尻幹, 2021, 第9回日本運動器理学療法学会学術集会 : 急性期における大腿骨近位部骨折患者の術後早期の生活意欲が日常生活動作の改善に影響する.
5. 石山航太郎, 2022, 第38回神奈川県理学療法士学会 : 脛骨高原骨折患者の術後1週における腫脹

が膝関節可動域に与える影響について～疼痛の解積に注意した症例～.

6. 須田健太郎, 2022, 第38回神奈川県理学療法士学会 : 人工膝関節全置換術後患者に対する膝関節屈曲練習用リハビリクッションを使用した関節可動域練習と患者教育を組み合わせた介入効果.
7. 佐藤功, 2022, 第38回神奈川県理学療法士学会 : 人工呼吸器離脱を目指したが、離脱困難となった患者の呼吸器管理過程と理学療法介入.
8. 西村彰紀, 2022, 第12回日本腎臓リハビリテーション学会 : 急性期病院における血液透析導入患者の転帰についての検討.
9. 西村彰紀, 2022, 第55回日本臨床腎移植学会 : 腎移植レシピエントの術後1年の身体機能.
10. 宮内義由, 2021, 第18回神奈川県作業療法学会 : 基節骨骨折後に生じた可動域制限の要因と対処法～把握動作を獲得した症例からの学び～.
11. 佐藤由紀子, 2021, 第18回神奈川県作業療法学会 : 肘関節脱臼骨折を呈した一症例 日常生活動作の困難感とゴルフ再開に向けて一考察.
12. 田原瑞穂, 2021, 第18回神奈川県作業療法学会 : 仕事をしている高齢者に対する伸筋腱断裂修復後のハンドセラピィの経験.

### 招聘講演

1. 一條幹史 : 体表解剖学の呼吸理学療法における活用. 体表解剖学研究会, 第3回オンライン講習会, 2021.
2. 西村彰紀 : 末梢動脈疾患(PAD)合併透析患者のサルコペニアと認知機能. 第12回日本腎臓リハビリテーション学会, 2022.
3. 西村彰紀 : 透析患者 PAD とサルコペニア・フレイル・認知症. 第2回日本フットケア・足病医学会年次学術集会.

# リハビリテーション科

---

## 書籍共著

1. 南條恵悟：運動機能障害の理学療法－運動連鎖に基づく評価・治療－（羊土社），第1章 下肢 3，大腿骨警部骨折。
2. 大橋有香：整形外科ビジュアルリハビリテーション，腱損傷。

## その他の活動

COVID-19 の流行による病床数の増減の影響もありましたが、救急を断らない当院の理念から今年度も多くの新規患者に適応し急性期リハビリテーションを行いました。さらに、リハビリテーションの実施業務のみならず、排尿ケアチームでの活動、摂食嚥下チームでの活動、集中治療分野における早期離床チームでの活動、治験業務への協力、公開講座など様々な活動を実施しました。

## 公開医学講座（毎月1回）

根本敬：フレイルを知り「100年人生」を、生きる。

栗原大輔：身近な腰痛～知っておきたいこと～

桂川泰明：自分で治すリハビリテーション“肩”～痛みなくバンザイできますか？～

南條恵悟：自宅でできる効果的なストレッチ、自分で治すリハビリテーション“膝”～痛みなく歩けますか？

～

## 展望/抱負

当科の理念である『急性期から在宅まで患者様主体の質の高い医療を提供する』を追求するために、社会ニーズに応えながら超急性期リハビリテーションの取り組みと創造を実践。全国的にも超急性期でのリハビリテーションの展開はまだ少ないのが現状です。患者さんへのリハビリテーションの提供から更なる知見を深め、我々が経験したリハビリテーションの治療・技術の体系的確立を世に問っていくことが専門職としての責務であると同時に療法士としての存在意義と考えています。